

* 研究目的

関西湾岸エリアの広域ネットワーク形成は、観光・教育・文化行政・防災等さまざまな分野で今、もっとも求められている社会的課題である。それには、海のむこうの対岸と直接つながるダイナミックな視座、つまり船の交通の視点が不可欠である。本研究では、関西湾岸エリアの海の文化観光を船祭りの民俗や観光舟運、水中考古遺産や港に集積する企業文化などから多角的に実地検証し、適切な文化資源の保全をはかりつつ、観光を軸とした新たな広域連携を実現し、湾岸エリアの活性化に資するのがねらいである。

* 研究チームメンバーと研究課題

出口 晶子	文学部・歴史文化学科・教授	船祭り等の海の民俗と観光舟運、海の広域連携課題についての研究と全体統括
奥野 明子	経営学部・教授	関西湾岸エリアの鋳物・酒造・製菓等企業文化の形成と企業博物館の観光資源化の研究
出口 正登	写真家	関西湾岸エリア一帯の文化景観と観光実態の写真記録、観光適地化に向けた課題群の映像研究
木村 淳	東海大学・海洋学部 海洋文明学科 特任講師	水中考古遺産の存在確認とその保全課題、観光への活かし方の調査研究